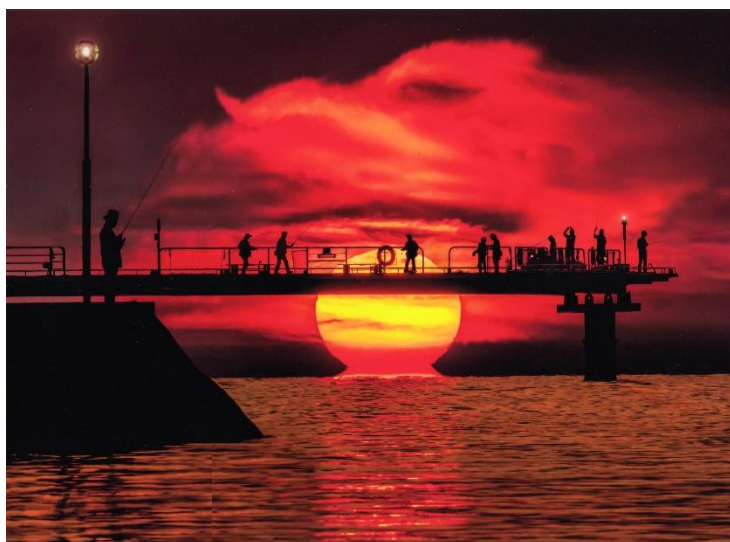


全日本写真連盟広島県本部 「2021フリーフォトコンテスト」審査結果



主催 全日本写真連盟広島県本部
応募者数 40人
応募点数 146点
審査・講評 関西本部委員 森 芳樹

推薦

「日没の釣り人」

原田今朝弘 (デジタル広島支部)

雄大なダルマ夕日と夕焼けを背景に、手前の釣り人をシルエットで表現した何とも素晴らしい出会いの一瞬ですね。左の街頭、釣り人を入れることにより、画面がさらに引き締まりました。画面構成、プリントの色と文句なしの一枚です。

特選



「旅立ちの日に」

田中 則子

(広島タウン支部)

桜吹雪舞う中、一人ローカル駅に佇む女子高生。春の良き日にどこへ旅立つのでしょうか。とてもドラマチックですね。赤いスーツケースが印象的です。都会の色に染まらないでください。



「めざめの刻」

宍戸 安子(デジタル広島支部)

撮影時はさぞかし寒かったでしょうね。鶴の越冬地でしょうか。樹氷の下で群れなす鶴たち。その一羽が今羽ばたいて自身を鼓舞しています。湯気立つ池の色が幻想的でいいですね。

準特選



「コンコース」

宇都宮 雅江(フォトシャッセ支部)

画面上部の強烈なイラストの動と下半分の人物の静、動を取り入れた画面構成でシャッター速度をうまく利用した作品です。それにしても二人の男女はうまく止まってくれましたね。



「興味津々」

山田 興亜(個人会員)

とかく男の子は昆虫に興味があります。カマキリをジーっと見つめる子供の目とそれから逃げようとするカマキリの目をうまく撮っています。お子さんはお孫さんでしょうか。



「ジャンプ一番」

鍵本 裕次(東広島支部)

モトクロスラリーで画面の中に7台のジャンプするオートバイが入っています。一瞬のシャッターチャンスをつかえた力作ですね。観客は自分の上を飛ぶオートバイが怖くないのでしょうか。またはそれを楽しんでいるのでしょうか。

入選



「神事」
渥美 和行(佐伯支部)



「夕陽のしっぽ」
西川 正治(東広島支部)



「熱中」
荒木 忠義(広島支部)



「命中」
西尾 弘(広島タウン支部)



「夏の海辺」 鴨野 昭夫(佐伯支部)



「朝の地下道」
朝枝 加津子(フォトシャッセ支部)



「形影一如」
上瀬 繁(フォトシャッセ支部)



「忙しい人」
上瀬 俊也(サンデータウン支部)

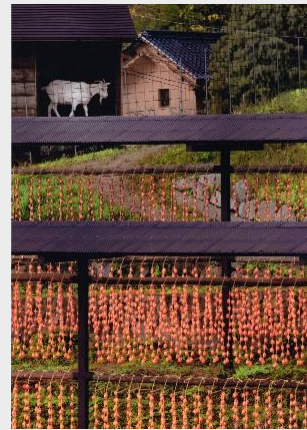


「気合だー」
砂田 見親(広島タウン支部)

特別賞



「角の突き合い」
向井 景昭(サンデータウン支部)
雪降る中、2組の雄鹿が戦っている姿を手前の枯れ草をうまく利用して、多分超望遠レンズで撮影していますね。勝者が手にする物は1頭の雌鹿でしょうか。どこの世界も子孫を残すための戦いがあります。



「山羊のお巡りさん」
河野 宏志(サンデータウン支部)
いいタイミングで現れた山羊を逃さず撮影したのは良かったですね。主役、脇役が揃った作品となり、良い作品となりました。撮影会の際はいつでもシャッターを押せる状態にする事が大事です。



「ディスタンス」
野本 洋一郎(広島タウン支部)